

3. 4. 9 その他

TRANSET2001 (高齢者・障害者の移動と交通に関する国際会議) 参加報告

はじめに

2001年7月に、ポーランドのワルシャワ市で、第9回 TRANSET2001 (高齢者・障害者の移動と交通に関する国際会議) が開催されました。

本会議は、高齢者や身障者の移動・交通問題に関する世界会議であり、3年ごとに開催され今回で第9回を迎えます。本会議では、世界各国からの参加者(25カ国以上から300名以上の参加)により、道路・鉄道・船舶・航空の4分野での高齢者・身障者の交通問題・対応方策等が討議され、筆者も、「Research on ITS for Pedestrians (歩行者ITSに関する研究)」と題し、現在国土技術政策総合研究所と民間企業との共同研究により開発を進めている、身障者・高齢者に対する情報提供による歩行支援システムに関して発表を行いました。

会議報告

筆者が参加したセッション5「TECHNOLOGY DEVELOPMENT (技術開発)」には、100名程度が出席し、発表後には、身障者支援システムの統合・標準化の方向性や、身障者(特に視覚障害者)への音声による情報提供における留意点等についての意見交換が行われました。

本会議には、自身が障害を負っている方も多く参加しており、会場では車いすに乗った参加者や介助者に手引きされた視覚障害者の参加者もたくさん見られました。そのため、研究者同士の情報交換だけでなく、実際に身障者支援システムのユーザーとなる身障者自身の生の声を聞くことができる貴重な経験となりました。

彼らの多くは、実際に研究機関や行政機関で職に就いているそうです。全ての諸外国で身障者の雇用が進んでいるわけではありませんが、バリアフリーに関する業務・研究を行う機関にさえ身障者があまり雇用されていない日本の状況を顧みると、段差の解消やエレベーターの設置ではない面での日本のバリアフリーの遅れを痛感させられます。

ワルシャワの歩行環境について

会議の合間に、当地ワルシャワのバリアフリー化の状況について観察しました。

日本の都市部と比較すると、歩道の段差が大きく、車いすでの通行が困難な箇所が見受けられ、

また、視覚障害者誘導ブロックがほとんど設置されていないなど、一見すると、身障者には厳しい状態だと見受けられました。しかし、地下鉄・地下道への入り口には、見た限りでは全てエレベーターもしくは車いす用のリフトが設置されており、車いす利用者にとって決定的とも言える「鉄道のバリアフリー化」はかなり進んでいるようです(ただし、長距離鉄道駅のエレベーター等の施設は不十分でした)。

また、街全体として観察すると、かなり歩きやすい構造となっています。市の中心部は車が入りにくい構造(一部のエリアでは許可車両以外は進入禁止)になっている一方、幹線道路にはかなり広い幅員の歩道が設置されており、非常に歩きやすい空間でした。ヨーロッパでは、このように、自動車のための幹線道路と、自動車の進入を制限したエリアとが明確に区分されている都市が多く、将来の都市内道路ネットワークの形態として手本になるだろうという印象を持ちました。



自動車の進入が制限された旧市街

おわりに

本会議は、世界各国のバリアフリーに関する産官学の各分野の研究者・行政担当者が集まる数少ない場です。国土交通省としても、いわゆる「交通バリアフリー法」が施行されたこともあり、今後同会議へも積極的に関わっていくことが期待されます。

なお、次回の会議は、2004年に浜松で開催されることが決まっています。

国土交通省国土技術政策総合研究所道路部
道路空間高度化研究室 池田裕二

道路空間高度化研究室

概要

道路空間高度化研究室は、旧土木研究所の交通安全研究室の研究業務を受け継ぐ形で設置されました。研究室の名称が、交通安全研究室から道路空間高度化研究室となったこともあり、交通安全研究室で取り組んでいたバリアフリーをはじめとする歩行空間の計画設計、交通事故分析・安全対策検討手法、防護柵・照明・標識などの交通安全施設等についての調査・研究・開発に加え、道路の空間としての利活用方策についても新たに取り組むこととなりました。

研究内容

当研究室では、道路を安全で快適な空間、安心して利用できる空間としていくために、以下のような研究に取り組んでいます。

1) 歩行者 ITS

歩行者 ITS は、従来のハードなバリアフリーに加えて、近年の目覚ましい進歩・発展を遂げている情報通信技術を活用し、注意喚起（「危ない」を知らせる）、経路案内（「行きたい」に応える）、周辺情報の提供（「どこなの」を教える）などを行い、視覚障害者や下肢障害者、高齢者が、安全に安心して快適に歩くことができる歩行空間環境を提供し、ソフト面でのバリアフリー環境を実現しようというものです。現在、民間企業 24 社（5 コンソーシアム）と共同で技術・システムの研究開発を進めています。

2) 歩行空間の計画・設計

歩行空間のバリアフリー化、コミュニティ・ゾーンなど生活道路の安全性・快適性・利便性向上、更には、今後の成熟した社会の中での歩行空間のあり方など、社会的ニーズに対応した計画・設計・管理等のあり方について調査研究を行っています。

3) 道路空間再構築

少子高齢社会、環境保全型社会等、わが国社会の変革・時代の流れの中で道路の持つべき役割・機能は、変化しています。その変化・現状を評価しながら、今後の道路の果たすべき役割・機能を分析した上で、社会・経済のニーズに対応した道

路空間のあり方、再構築のための方法等について、調査研究に取り組んでいます。

4) 交通安全対策・施設

道路環境的要因に起因して発生する交通事故を削減するために実施される交通安全対策の立案を支援するために、発生した交通事故に対する安全対策の検討手法、潜在的危険箇所の評価手法、交通安全対策の取り組み成果を有効活用する全国的フィードバックシステムの構築、更には、安全な走行、被害軽減等のために照明・標識・区画線・防護柵等の施設について、調査研究開発を行っています。

研究施設

当研究室では、以下の研究施設を有しています。

・ 標識屋外・標識屋内実験施設

屋外及び屋内（照明、降雨・霧の条件設定が可能）において、標識の位置・高さ・天候条件などを変化させて、標識の走行中の視認性や理解度等について実験を行うことができます。

・ 照明実験施設

様々な道路照明条件を設定することができ、道路照明の配置や見え方に関する実験を行うための施設です。

・ 衝突実験施設

防護柵、緩衝施設などの交通安全施設を開発・改良するため、実際に車両を衝突させ、安全施設の性能、車両・乗員の加速度、車両の衝突後の挙動・破損状況などを調査する施設です。

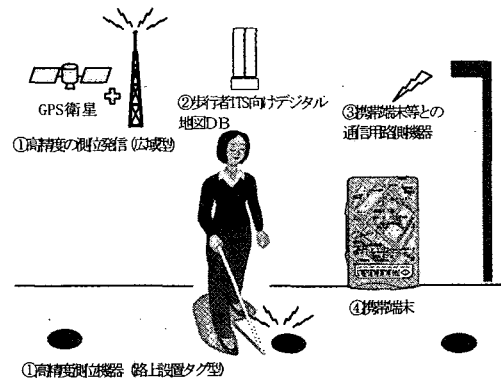


図 歩行者 ITS のイメージ

国土技術政策総合研究所道路研究部

道路空間高度化研究室 (0298-64-4539) 室長 森 望

